

始良市観光開発審議会 会議録

会 議 名	令和5年度第2回始良市観光開発審議会	
日 時	令和5年12月5日(火) 14時 開会	
会 場	始良市役所加治木総合支所 多目的ホール	
出 席 者	委 員	会長、委員12名
	市職員等	商工観光課長、商工観光課長補佐兼観光係長、観光係1名
会 次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 協議 4. 閉会 	
協 議 事 項	(1)第3次始良市観光おもてなし計画素案について (2)その他	
会 議 結 果 要 旨	(1) 第3次始良市観光おもてなし計画素案について ・会議経過要旨のとおり (2) その他 ・特になし	
会 議 経 過 要 旨	(委員) ・文字が多過ぎて見にくいため、始良市の良いところの絵(写真)などを挿入してほしい。 ・事を起こすのは、行政がどうこうではなくて、地域が主体的にどう担っていくのかということ。一部の人間だけでなく、幼児から高齢者までがひとつになったものをつくり上げていくということが、観光にも生きていく。 ・行政がもう少し地域に出てほしい。地域が今どんな活動しているのか見て、生かせることを互いに学び、行政マンが市民のことを考えながら動けば、県内一すばらしい始良市ができると思う。 (委員) ・繰り返しが多く、同じフレーズが出てくるため、もう少しコンパクトにまとめたらどうか。 ・作文に終わってしまっていると感じる。前計画から進展したこと、課題として残っていることを検証し、今回の計画ではどういう形でそれを生かしながらやっていくのか具体的な指針が必要だと思う。 ・誰をターゲットにした観光戦略なのか。海外、県外、県内、それぞれで重点的にやっていく取組は違う。 ・まちづくりは教育、教育づくりはまちづくりだと思う。観光は必ず教育に関係があるので、目配り、気配りをし	

会議結果要旨

たほうが良い。また、市民が自分たちのまちを知らないといけない。市民教育も大事だと思う。

- ・重富海岸から見た桜島は、始良市の大きな魅力。魅力を何点かに絞って、そこを重点施策としてやったほうがベターである。

(委員)

- ・住民目線が大事だと思っている。始良に住んでいる人たちに、観光を教えて回り、その人が導いてくれるような観光にできれば、まちはもっと輝くと思う。
- ・観光地へのWi-Fi設置をもう少し普及してほしい。
- ・全体的に学校教育のことに触れられていない。子供たちにふるさとを残し、彼らが大人になり出て行ってもまた戻ってきてくれるというのはまちづくりにもつながっていくと思う。Uターンして、自分たちで大事なふるさとを守ってくれるような、教育をしていけば、観光はもっと広がっていく。

(委員)

- ・誰をターゲットにするのかは、基本中の基本。絞ったほうがよい。
- ・地元型観光のように市民も含めてみんなをわくわくさせることは、とても大切である。
- ・今は、情報が口コミによって伝わっていく。インフルエンサーや地元の方々が楽しかったことを発信すると、それが国内だけではなく海外にも伝わる。まち側からインフルエンサーなどを呼んで、楽しいことやお土産をインスタグラムに上げてもらうことで、外国人が集まるようになるかもしれない。

(委員)

- ・特産品協会も商品開発を色々としているが、なかなか売り先がないというのが実情。
- ・何をするのかというのは、ひとつだけでいいと思う。その中で、どうやって本気で皆さんと一緒になって取りかかっていくのかが大事。小さいことからでいい。
- ・外国人は日本の歴史や文化いっぱい触れたいと思う。例えば、お寺での宿泊や食事はどうか。島津義弘公の甲冑の着付けなどもすごく感動すると思う。

(委員)

- ・観光は外向けのイメージ、外貨を稼ぐというのがあるので、関係者はあまり「地元向け」という言葉を計画に書きたがらない。ただ、始良市の特性を考えると、文言の

会議結果要旨

中にきっちりと地元向けを入れてもよい。

- 地元の人が騒いだり、ざわついたり、面白がるところに、他の人たちが気づいて話題の場所になることがあるので、まずは、地元の皆さんが楽しむ環境をつくることは大事。
- 子供の頃から地元を楽しむというトレーニングしておく、大人になったときに、これからの観光の即戦力になると思う。
- 課題解決は、広域連携でできる部分もある。例えば、隣の霧島市、鹿児島市には宿泊施設がたくさんあるので、宿泊は向こうでもらって、始良には観光できてもらう。広域連携のよさは、役割分担の中で回遊ルートをつくることだと思う。この部分をきちんと計画に入れ込むことが大事。
- 言葉に説得力がないのは、マーケティングの数字をもとにした言葉が足りないからではないか。この計画書はこの数字のもとにできているという市場調査があれば、文言が説得力のあるものになる。コロナが明けてきたゴールデンウィークから今までの半年間のデータはとても参考になる。
- 始良市は、地域のグリーンツーリズム協議会がないが、すごくいい田舎があり、農家さんもたくさんいる。協議会を作れば、周辺の薩摩川内市や鹿児島市などと連携して、もっと修学旅行の受け入れなどができると思う。
- 島津義弘の大河ドラマを見たい。始良市は文化財指定数が県内一というのは、義弘、戦国島津あつてのこと。大河ドラマが来たら、一過性でも盛り上がりが全然違う。

(委員)

- 市民のなかで、頼まれないのに地域のために何かやるというような人は、頼んでも見つからない。そういう人たちが活動することについて、本気で応援していただけると次回の計画のときにはもっと具体的な成果が上がっているのではないかと思う。

(委員)

- 「桜島サービスエリア」を「始良サービスエリア」に変更できないか。
- 市民にこの計画があることが分からなければ意味がない。広報手段を検討してほしい。
- 物産館の建設について、商工会との連携が大事だと思う。
- 始良市にも大河ドラマ誘致の会があるので連携してほしい。3～4年前の情報では、全国26か所が手を挙げている

そうだ。これから大いに売出していく必要がある。

(委員)

- 行政の有効的に使えるものを地域がうまく使うことができるようにしてほしい。
- 地域の方がまず自分のまちを知ることは非常に大事である。しかし、桜島を日頃当たり前に見ているように、地元にいると地元の良さは正直分からない。もちろん地域の方が盛り上がって、市外の方が集まってきて外貨を稼ぐのは非常に大事だが、やはりSNSやインフルエンサー使って、市外から入ってくる人をはじめからターゲットにしたほうが、魅力的に見えると思う。

(委員)

- 計画の全体を通して、おもてなしの心がちりばめられているような気はしなかった。市民一人一人がおもてなしの心を持つことは、なかなか難しいため、計画の随所におもてなしの心、例えばマイノリティーに対する配慮などが盛り込まれているとよい。
- マイクロツーリズムについて触れてほしい。
- マイクロツーリズムやグリーンツーリズム、始良ばあちゃんスイーツ、カモコレなど、言葉の注釈や概要が載っていると、分かりやすい。
- 子供たちに身近なものが、インフルエンサー、ユーチューバー、T i k T o kの方々である。保護者も、子供が見ているものを一緒に見ている、同じものを一緒に楽しむことができる時代になってきている。インフルエンサーやロコミなどを取り入れて、遊びに行ったり、そこで消費したりという観光の形もあると思う。

(委員)

- 情報発信について、ロコミやSNSも必要だと思うが、ある程度お金を使って、全国に発信すれば、ほっておいても来るようになるのでは。
- 食は、大切なキーワード。テロワール旅と言いつつ、地域に根差した食と食を中心とした文化を味わう観光を推奨している地域もあるらしい。ばあちゃんスイーツ、煮しめグランプリ、加治木まんじゅうなど、発信できる食を観光の目玉にしてもよいと思う。

(委員)

- インバウンドは増えていて、台湾、韓国がかなり入ってきている。F I Tと言われる個人旅行の方が主で、ツアーの方は皆無というかたちである。12月から3月にかけて

	<p>て、韓国のツアー会社と提携し、ゴルフ観光という感じで、3、4か月で500～600人を誘致する。韓国から来た方に、1日もしくは半日でも始良の観光をしてもらえたら、PRになる。ツアー会社からそういった提案をしてもらうのもひとつの方法である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・始良市は、移動手段が少なく、海外の人はどうやって観光しようという感じである。観光しやすい環境を作ってあげることもおもてなしだと思う。実際に、山口県宇部市では、宿泊補助や交通補助で海外からの送客をどんどんとっている。インバウンド入れるためには、良い戦略だと思う。 ・ホテルの宿泊者向けアンケートにQRコードを貼って、市が旅行目的や旅行先、手段などのアンケートをとり、答えた人には抽選で特産品をあげるなどすれば、データの蓄積にもなると思う。
<p>その他特記事項</p>	<p>次回の開催予定日 日時：令和6年2月中 場所：始良市役所加治木総合支所</p>